

## 解答

(1)2 (2)1 (3)3 (4)例：死んだ人は眠ってしまって目を覚ますことがないのだ、と教える。理由：自分も死んでしまうのではないかと心配して子どもが眠ることを怖がるかもしれないから。(5)2 (6)case (7)2 (8)全文訳参照 (9)子どもを保護するつもりで大人は時に家族の悲しみを共に体験することから子どもを締め出すが、賢明とはいえない。(10)3 (11)全文訳参照 (12)全文訳参照 (13)悲しみを表現しない親の不自然な態度に、子どもが当惑して自分の感情を発散できなくなるから。(14)4 (15)1 (16)3 (17)6 (18)vent (19)2 (20)家族の死の悲しみを和らげるため、子どもを死から遠ざけるよりも、大人と同様に喪に服し、感情を吐き出したり、故人のよい記憶を思い起こしたりする機会を設けることが必要だ、ということ。(21) やさしい言葉で答えること。 子どもを怖がらせないこと。 子どもを混乱させる結果にしかないかもしれないというその説明をしないこと。

## 解説

- (1)the first experience of the kind that touches a child closely「より身近に子どもに触るはじめての経験のようなもの」 of the kind「そのような」 touch「触れる」はここでは子どもの心に触れるという意味。2.心を動かすが近い。4.傷つける、は言い過ぎである。
- (2)it is important to answer in simple terms「簡単な言葉で答えてあげることが重要である」 termには「期間、条件」といった意味もあるがここでは1.言葉という意味である。
- (3)instill「教え込む、しみこませる」 without instilling fear「恐怖をしみこませる = 恐怖を植えつける」で3が正解。
- (4)grown-ups「大人」 some of the explanations「説明のいくつか」は下線部の後に具体的に述べられている。亡くなった人は「眠ってしまってもう起きないのだ」と言う場合と、「病気のために亡くなったのだ」と言う場合である。後者が良くない理由は「言われた子は、自分が両親が何かの病気にかかったとき、たとえそれが風邪でも、死んでしまうと信じて怖がるかもしれないから」どちらかの例とその理由が書けていればよい。
- (5)he may be frightened「彼は怖がるかもしれない」 2.scared「おびえた」が正解。1.confused「当惑した、混乱した」 3.sensitive「敏感な、感じやすい」 4.skeptical「疑い深い」
- (6)in caseには2つの意味がある。「もし～ならば、万～の場合には」という仮定(= if)の意味と、「～だといけなから、～の場合に備えて」という意味である。ここは後者で、in case he should also die.「彼もまた死ぬといけなから(彼は一人で眠ることを怖がるかもしれない)」 in that「...という点で」
- (7)wear out「すりへる」 2.exhausted「つかれきった、使い果たされた」が正解。体が年を経てもう使い古されてしまったという意味なので 3.overburdened「負担をかけられすぎた」は不適。1.decayed「腐らされた」 4.wounded「負傷した」 because their bodies get worn out「彼らの体がすりへってしまったから」
- (8)A is not so ~ as B is「AはBほど～でない」という構造の文である。Bにあたるのは、the manner in which an answer is given「答えの与えられ方」
- (9)unwisely「賢明でないことに」 exclude the children from sharing in the family sorrow「家族の悲しみを共有することから子どもを締め出す」 exclude A from B「AをBから締め出す」 share in A「Aを分担する、ともにする」 sorrow「悲しみ」 with the idea of protecting them「彼らを守るという考えのために」 protect A「Aを保護する、守る」 このthemは childrenをさす。ofは同格「～という」の用法。
- (10)overwhelm「力で圧倒する」 overwhelmed with shock or grief「ショックや悲嘆で圧倒される、苦しむ」という意味である。近いのは3.屈する。
- (11)However grief-stricken a mother or father may be = No matter how grief-stricken...「母親や父親がいかに深い悲しみに打ちひしがれていても」 however + 形容詞で「どんなに～でも」という意味。grief-stricken「悲しみに打ちひしがれた」 it is important to remember that...「...を思い出すことが重要である」 need to be comforted「慰められる必要がある」
- (12)feel for A「Aに同情する」 at such a time「そのようなときに」 つまり、家族を失ったとき、のこと。try not to 不定詞「...しないように努める」 give way to A「Aに屈する、譲歩する」 uncontrolled expressions of grief「抑えきれない悲しみの表れ」 in A's presence「Aの面前で」
- (13)neither necessary nor wise「必要でも賢明でもない」 その理由は直後に説明されている。When the adults master themselves entirely「大人が自分の感情をすべて抑えたとき」 つまり complete control のとき。children are puzzled and often unable to give vent to their own feelings「子どもたちは困惑して、しばしば自分の感情を表に出すことができなくなってしまう」これが理由である。

- (14)for one's sake「～のために、～を目的として」 4.sake が正解。for the children's sake「子どもたちのために」
- (15)children are puzzled「子どもたちは困惑する」 1.confused「混乱した」が正解。
- (16)take part in A「Aに参加する」 3.part が正解。to be allowed to take some part in the family's mourning「家族の喪にいくらかは参加させてあげること」
- (17)in one's own way「それなりに」 6.way が正解。When they can share it in their own way「彼らがそれをそれなりに分かちあえれば」
- (18)outlet「出口、はけ口」同じ意味の単語は同段落 2 行目の終わりにある vent である。vent は「穴、通気孔、(感情などはけ口)」という意味。give vent to A「Aにはけ口を与える」つまり「表に出す」 they find an outlet for their own feelings「彼らは自分の感情にはけ口をみつける」
- (19)give expression to A「Aを表現する」 2.expression が正解。by giving it expression「それを表現する、表に出す」
- (20)children need this relief as grown-ups do「大人たちと同様に、子どもたちもこの種の緩和を必要としている」 this relief は take some parts in the family's mourning「家族の喪に参加する」こと、そして Mourning relieves sorrow by giving it expression, and by recalling...「それを表現したり、...を思い出したりすることによって、喪が悲しみを和らげる」ことを踏まえた表現。
- (21)第 1 段落の最後の行に Whenever the child asks about death, it is important to answer...と注意すべき 3 点が述べられている。それは in simple terms「簡単な言葉で」 without instilling fear「恐怖を植えつけることなく」 without false explanations「嘘の説明をせずに」の 3 点である。

## 全文訳

子どもというのは、いくつであっても初めて死の概念に出会うものかもしれない。平均的な場合において、家族の中で年長の人の死というのは、子どもの心を動かす初めての経験のようなものになるだろう。子どもが死について尋ねるときにはいつでも、子どもを怖がらせたり、混乱させるだけの嘘の説明をしたりしないで、簡潔なことばで答えてあげることが重要である。

大人が子どもに与える説明には、言うのはもっとも簡単だが、もっとも賢明であるとはいえないものがある。死んだ人は「眠ってしまってもう起きないのだ」と言われると、子どもは自分もまた死んでしまうといけなそうと思って、一人で眠ることを怖がるかもしれない。あるいは、もしも病気のために誰かが亡くなったのだといわれると、彼は自分が自分の両親がなにかの病気にかかったとき、たとえそれが風邪であっても、死んでしまうと信じて怖がるかもしれない。

幼い子どもにとって、細かいことは必要でなく、避けるのがもっともよい。簡潔な説明で充分である。つまり、人は体を使い古していつか死んでしまうのであるということだ。もしも子どもが、死んだ人はどこへ行くのか知りたがったら、両親は自分の宗教的な信仰を子どもに話す必要がある。両親が子どもに話せるような信仰を持たないなら、自分たちもよくわからないのだと認めれば、子どもは受け入れられるのだ。

(8)正確な説明は、答え方ほど重要ではない。両親が死の事実を、勇気をもって受け入れれば、彼らはこの態度をことばと一緒に伝えるのである。

家族に不幸があったとき、大人たちは子どもを守ろうとして家族の悲しみを分かち合うことから子どもを締め出すことがときどきあるが、あまり賢いことではない。確かに子どもにとって、自分の両親や他の年長の人々が動揺や悲嘆で苦しんでいるのを見ることはよいことではない。けれども脇に置かれたり、見知らぬ人に世話をしてもらおうようにと家から送り出すこともまた、よいことではない。家族にとっての喪失は、子どもにとっての喪失でもある。子どもは、そのような時もっとも近くににいる人々から隔てられるべきではないのだ。

(11)母親や父親がいかに深い悲しみに打ちひしがれていても、子どももまた苦しんでおり、悲しみを和らげてあげる必要がある、と思い出すことが重要である。(12)このような時、親は子どもに同情して、子どものいる前で抑えきれない悲しみに屈して、それを外に出してしまうことのないように努めるだろう。

悲しみを表現することを完全に抑制してしまうのは、必要でも賢明でもない。大人が子どものために自分の感情をすべて抑え、まったく悲しい様子を見せなかったら、困惑してしばしば自分の感情を表に出すことができなくなってしまう。いくらかは家族の喪に参加させてあげることが子どもにとって大切である。彼らが悲しみをそれなりに共有できれば、彼らは自分の悲しみののはけ口を見つけ、慰められる。喪に服するということは、それを表に出すことで、そして亡くなった人との幸福で愛すべき記憶を思い起こすことで、悲しみを和らげるのである。子どもは大人と同じようにこの緩和を必要としているのである。